

平成30年7月豪雨による土砂災害を踏まえた 今後のハード対策及びソフト対策を考える上での課題

平成30年9月11日

検証結果から見える課題

<課題1:避難すべき人が避難できていない>

(課題の背景)

- 土砂災害のリスクを適切に認識できていない。
- 避難所まで避難するのは危険と判断している。
- 避難しようとしたときにはすでに安全な避難所に到達できる状況に無くなっている。
- 一方、地域の呼びかけ等により、避難を実施し難を逃れた例がある。

<課題2:土砂・洪水氾濫により、下流の市街地に広範囲に土砂が堆積し、救助活動、復旧活動の妨げになったほか、地域の社会経済にも長期間影響を与えた>

(課題の背景)

- 平成29年の九州北部豪雨など、近年、土砂・洪水氾濫による大量の土砂により救助活動、復旧・復興活動や経済活動にも大きな影響を与えている。
- 河道が埋塞して土砂が氾濫することで、新たな区域にまで災害リスクが拡大した。